

はじめに

近年、都市化や高度情報化の進展に伴い経済的な豊かさが実現され、社会が成熟化する一方、現代の子どもたちは、山や海、川など自然の中で活動する自然体験や同年代の仲間と一緒に寝食を共にする集団宿泊体験といった多様な体験をする機会が少なくなっています。

子どもの頃の多様な体験は、豊かな社会性や人間性の成長において欠かすことのできない大切な糧になります。そこで、独立行政法人国立青少年教育振興機構では、「体験活動を通じた青少年の自立」をテーマに、子どもたちに多様な体験活動の機会を提供するとともに、体験活動の推進に資する取組のひとつとして体験活動の教育効果に関する調査研究を行っています。

体験活動における教育効果は様々な研究で明らかにされていますが、当機構では、体験活動による教育効果を測る手法のひとつとして、子どもたちの生きる力を手軽に測定できるアンケート用紙「IKR評定用紙(簡易版)」を開発しました。「IKR評定用紙(簡易版)」は、青少年教育施設の主催事業や学校の集団宿泊活動の成果を測定する指標として活用していただいています。アンケート調査や調査結果の集計・分析を行うには多少の知識や経験が必要になります。

そこで、当機構では、誰でも簡単にアンケート調査の結果を集計・分析できる“分析ソフト”とアンケート調査を実施する方法や留意点、データの入力、集計・分析の方法を解説した“調査・分析マニュアル(本書)”をセットにした「『生きる力』の測定・分析ツール」を開発しました。

本書は、調査や分析に関する知識や経験がない方でも手軽に「IKR評定用紙(簡易版)」を用いた調査を実施していただくことができるように、調査の実施方法から調査結果の入力、集計・分析などの分析ソフトの操作方法、分析結果の見方など分かりやすく解説したものです。

平成23年度から完全実施される新学習指導要領では「体験活動の充実」が示されています。そのため、小学校や中学校などで集団宿泊活動の企画や運営を担当する先生はもちろん、青少年教育施設で主催事業を担当する施設職員や青少年団体に活躍されている指導者の方にも当ソフトを活用していただき、子どもたちの体験活動の推進の一助にいただければ幸いです。

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
理事長 田中 壮一郎